

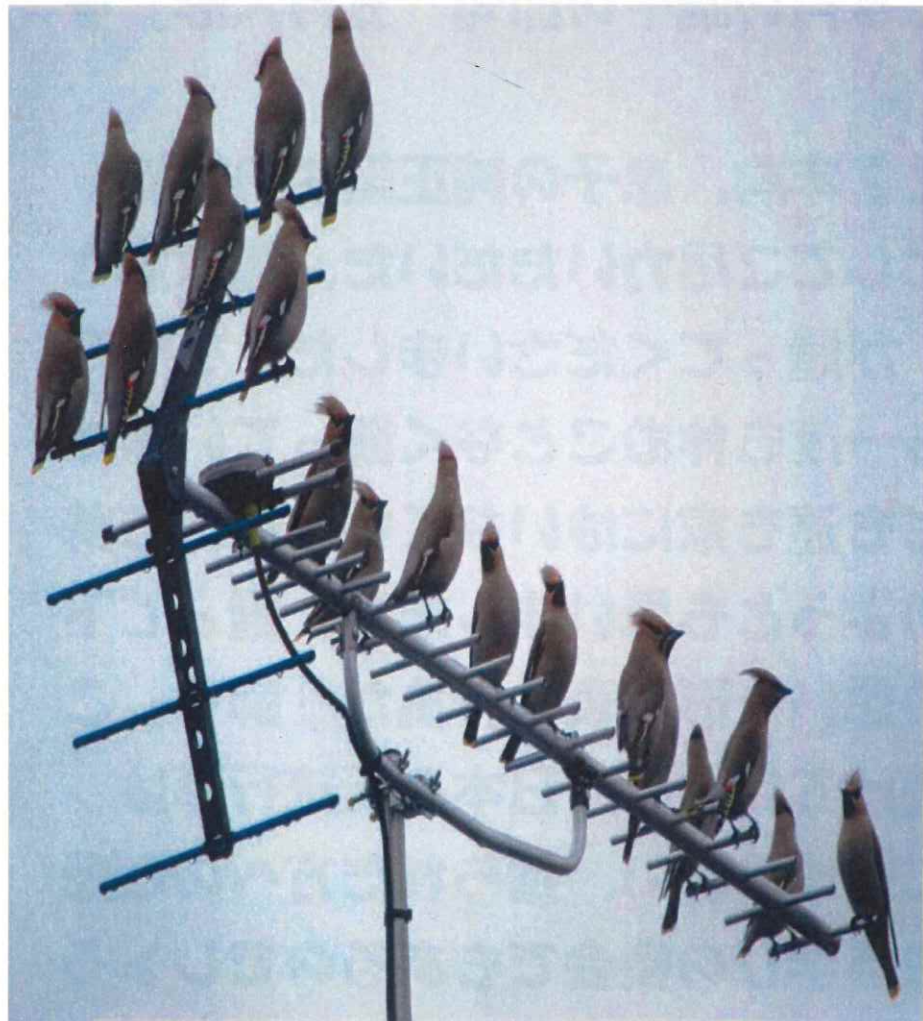


SENSHOJI
2022 YUKARI NEWSLETTER
since 1994

ゆかり通信
VOL. 290
令和4年3月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2022年千正寺カレンダー 3月の言葉



アンテナが好みようです/キリンジャク

3・11の時の夜空のように、
真っ暗だからこそ見える
光があると信じています。

(羽生結弦氏)

今年の大雪の疲れを癒やしてくれた先月の北京オリンピック。ジャンプの小林陵侷さんの金メダルに歓喜し、高梨沙羅さんの姿に胸が熱くなり、スノーボードの平野歩夢さんの演技に感動しました。そうした中で我が家の一番の注目はフィギュアスケートの羽生結弦選手の滑りでした。生で観るのは心臓に悪いですね。妻たちも録画の演技を悲鳴をあげて観ていました。

今月は、その羽生結弦選手の言葉です。ソチ五輪・平昌五輪二大会連続の金メダリストであり、今大会も活躍を期待しておられた方も多かったのではないのでしょうか。彼は宮城県仙台市生まれ。東日本大震災が発生した時、彼は16歳で仙台にあるスケート場で練習をしていた最中だったそうです。スケート靴を履いたまま屋外に避難し家族で避難所生活を送り、記事には「避難所では多くの人にとっても助けていただきました。だから僕も皆さんのために恩返ししたいのです。僕にできることはスケートだけですが」と彼は震災の1カ月後にそう述べていたとありました。

今月の言葉は、古里が被災し、現在も避難所生活を送る人や福島原発廃炉問題等、被害が続いている大災害があっても「あきらめることなく前を向いて歩いていこう」という彼の強い意思が表れているのではないのでしょうか。

大会3連覇はなりませんでしたが、果敢に4回転半ジャンプに挑んだあきらめることのない姿勢に感動を覚えた人も多かったはずです。羽生選手の活躍は被災地の人だけではなく多くの人を勇気づけ、復興に向けて共に歩んでいこうという旗印に思えます。

今大会の競技終了後、シンガーソングライターの松任谷由実さんがSNSの投稿に

「羽生選手の演技に、涙がぼろぼろ止まらなかった。倒れても、倒れても、崩れない強靱な“美”が、日本人を、人類を支えているんだと、確かに思えた。

メダリスト達以上に、私にとって価値あるものだった。」と綴っておられました。

(文：鹿谷賢純法務員)